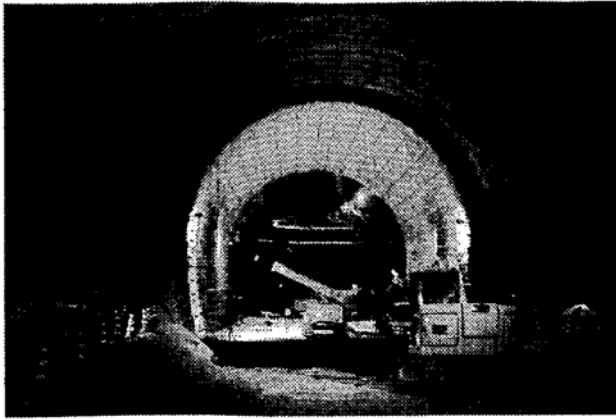


SEC協会 天ヶ瀬ダム工事を視察 放流設備にSEC採用

SECコンクリート機械協会は11日、京都府宇治市で建設中の天ヶ瀬ダム再開発事業トンネル式放流設備工事の現場視察研修会を行った。



水圧を抑える水路トンネル

天ヶ瀬ダムでは洪水調節機能の強化や水道水の安定供給、発電能力の増強を目的に、トンネル式の放流設備の整備が行われている。

天ヶ瀬ダム再開発事業トンネル式放流設備工事ではSECコンクリート工法を採用した高強度吹付けコンクリートが採用されている。会員各社から29名が参加した。

研修会では、ダムから吐出された水の勢いを宇治川に放流する前に抑える役割を果たす減勢池部の建設工事を見学した。施工は大林・飛島特定建設工事共同企業体が担当している。減勢池部で建設中の

水路トンネルは宇治川と高低差のある天ヶ瀬ダム貯水池からの水圧に耐えるため、日本最大級の約500mもの断面積を有する。超大断面のトンネルを掘削するため、小さな導坑を掘削し、上部を固めた後に大きな断面に切抜ける手順で施工を進めている。また、掘削区域には地質的に脆い破砕帯があるため、先行して掘削している側壁導坑内から鉄筋コンクリート(RC)円柱支保工を構築する対策を取っている。研修では天ヶ瀬ダムのほか吐出口部から減勢池部に入り、施工状況を見学した。

再開事業が完了すると、放流能力を900m³/秒から15000m³/秒に増強されるほか、1日当たり5万1840m³の水道水を新たに安定して供給できる。発電能力は需要電力の多い洪水期にも11万kWの電力供給が可能になる。

施工現場までの車中では、同協会が取得した「SEC練混ぜによる調整練混ぜ」、「一括練混ぜによる調整練混ぜ」の特許に関する報告を行い、工法に関する見識を深めた。